

令和7（2025）年

2月1日

第285号 毎月発行

編集 公民館だより編集室
発行 西東京市公民館

毎月第4月曜日は休館日です

西東京市

公民館だより

市ホームページをご活用ください！

今月号に掲載の講座一覧は、市ホームページでもご覧いただけます。
詳細情報やチラシを掲載している講座もありますので、ぜひご確認ください。



柳沢公民館 柳沢1-15-1 ☎042-464-8211
田無公民館 南町5-6-11 ☎042-461-1170
芝久保公民館 芝久保町5-4-48 ☎042-461-9825

kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp

谷戸公民館 谷戸町1-17-2 ☎042-421-3855
ひばりが丘公民館 ひばりが丘2-3-4 ☎042-424-3011
保谷駅前公民館 東町3-14-30 ☎042-421-1125
yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp



下級生にバトンタッチ！「ほくっとまつり」での様子(11月24日撮影)。

「いらっしやい！焼きそばいかがですか？」。香ばしいソースの香りとともに、明るく元気な声が響きます。ここは谷戸公民館を拠点に毎年4月に開催される地域の祭り「谷戸まつり」の焼きそばブース。食材を切って炒めてパック詰めして販売するまでの工程をボランティアの高校生約30人が交代して担います。コロナの影響で中断した谷戸まつり名物の焼きそばを、彼らが5年ぶりに復活させたのです。

5年前まで焼きそば作りを担当していた大人の協力があるとはいえ、高校生中心に2日間で1200食の焼きそばを作って販売するのは大変です。まずは友達や下級生を誘って仲間を増やし、練習を兼ねて先行する市内の2つのイベント(11月・ほくっとまつり、2月・ぼくろーむウィンターフェス)に出店して、それぞれ300食・200食を販売して経験を積みました。そして谷戸まつりで彼らは2日間で1200食を売りきりました。今回はそんな彼らのうちの3人に話を聞きました。

谷戸まつり参加のきっかけは？

小西 とりあえず何かボランティアがしたくて、高校1年の冬に友達と実行委員会に入りました。

安齋 小西君たちに誘われて、楽しそうと軽い気持ちで高校1年の冬から参加しました。

野口 昨年11月のイベントからの参加です。部活の試合で参加できない小西君たちの代わりにリーダーを担いました。

谷戸まつりで感じたことは？

野口 とても自由だな。大人の指示に従う形のボランティア活動が多い中、3種のソースの配合を決める焼きそばの試作会を一緒にしてくれるなど、私たち高校生がや

僕たちの青春は公民館です

谷戸まつりから能登へ。そして……

りたいいことを後押ししてくれる貴重な場でした。

安齋 ボランティアは支える側なのですが、様々な年代の方と関わる中で、逆に私自身も支えられたと感じています。



安齋佑望さん(高3)
軽音楽部でドラム担当。趣味は自然の中を一人で散歩すること。

小西 僕も人と人との絆ですごくいいなと感じました。

まつりがきっかけで、谷戸公民館主催の高校生がかかる講座に企画から参加することになったし、まつりの実行委員でもある

防炎アドバイザーの小野修平さんと知り合って、能登半島地震で被災した石川県輪島市門前町にボランティアに行くことにもなりました。思い返せば、僕の青春は公民館とともにあったなと思います。

被災地ではどんな活動を？
安齋 期間は3月30日から4月5日の7日間。野口さんと私は物資の配給のお手伝いが中心です。小西君が4月2日に合流してからは、ボランティア宿泊所の段ボールベッドの設営

のお手伝いをしました。実際の被災地の様子は？

小西 震災から3か月が経ったのに、あの日から何も変わらず、1階部分がつぶれた家や崩れたままの家が結構ありました。

野口 テレビで報道される情報しか知らずに現地入りしたので、正直初日はすごく不安でした。

小西 苦しんでいる人が大勢いるのに、僕らの住む東京ではあまり報道されず、現地に入ってから初めて知ったという感じです。

安齋 市役所の職員さんが自分自身も被災して大変な状況なのに、全力で住民さんの支援をしている姿に心を打たれました。

活動して気づいたことは？

小西 復興って壊れた家や街並みを再建するだけじゃなくて、被災した方々の絶望や悲しみに寄り添うことも復興の一部だと思いました。そして、幸せは日常の中にあって、失って初めてその存在に気付くものなのだと実感しました。



小西悠太郎さん(高3)
サッカー部所属。ルービックキューブにはまっています。

安齋 実は東京に帰る挨拶をしたとき、様々な感情がこみあげてきて泣いちゃったんです。そうしたら、輪島市の職員さんたちも一緒に泣き出して。あとで

聞いたのですが、苦しくても人前では涙を見せずに頑張ってきた職員さんが、張り詰めた気持ちをすっと緩めることができた瞬間だったのだそうです。私も少しは役に立てたのかなと思いました。

ボランティアで得たことは？

野口 私は中学時代コロナの影響で学校にしか居場所が無くて。人と関わりたから人との関わり方を忘れちゃったみたいで、一人で行動することが苦手でした。思春期あるあるなんです。ところが、周りの人になんてしようが、周りの人になんて思われるかが怖くて。そんな自分に対してモヤモヤした気持ちを抱えていました。高校生になり

コロナの制限も徐々になくなってきたのをきっかけに、自分が変われるのは今しかない。ボランティア活動に飛び込みました。この2年間いろんなボランティアを経て「じゃあ、行ってくるね」と、自信をもって行動できる私になりました。

小野修平さんの話

※令和6年1月から輪島市門前町で支援活動中



野口采理さん(高3)
水泳部所属。
好きな芸能人は佐野勇斗。

あなたたちの卒業後、高校生と公民館とのつながりは？

小西 昨年11月に開催されたほくっとまつりでは下級生が中心となり、焼きそばとホットドッグを販売しました。その動きは次

回、4月の谷戸まつりにつながります。彼らが築いたボランティアの灯が引き継がれ、新たな絆が生まれることを期待します。



門前町の避難所での物資運搬の様子

これまで延べ70人以上の中学生から20代までの若者を現地へつなぎました。若者が時間を作って足を運ぶということ、住民さんたちが自然と心に元氣を取り戻す様子をたくさん目にしました。物やお金の支援も大切ですが、人の寄り添いが一番だな、と思います。

*紙面に掲載できなかった全文版を市ホームページに掲載しています。



申込フォームについては、市ホームページ(上記二次元コード)から、各講座ページ内をご参照ください。
音声版「声の公民館だより」をご希望の方は、谷戸図書館(電話042-421-4545)へお問い合わせください。